

英語科学習指導案

平成 25 年 1 2 月 2 日
指導学級 1 年 3 組
指導教諭 大沼 祥子

1 単元名 Unit 8 ナンシーに会いに (NEW HORIZON English Course 1)

2 単元の目標

ア：コミュニケーションへの関心・意欲・態度

①部屋のどこに何があり、それがだれのものなのか積極的に情報交換する。

イ：外国語表現の能力

①部屋のどこに何があり、それがだれのものなのか表現する。

ウ：外国語理解の能力

①部屋のどこに何があり、それがだれのものなのか理解する。

エ：言語や文化についての知識・理解

①疑問詞 **where, whose**, 所有代名詞, 人称代名詞の目的格を用いた文の意味・構造を理解する。

3 指導に当たって

(1) 単元観

本単元では、ベッキー、ケビン、さくら、一郎の4人が、ベッキーの祖母ナンシーに招待され、冬休みにサンフランシスコへ行く様子が描かれている。文法事項としては疑問詞 **where, whose**, 所有代名詞 (**mine, yours** など), 人称代名詞の目的格 (**him, her** など) を学習する。機内、手荷物受取所、空港ロビーでの会話を通して海外旅行への興味・関心を高めるとともに、インフォメーションギャップによる情報交換をすることで、コミュニケーションの楽しさを実感させることのできる単元であると考えられる。

(2) 生徒観 (男子 16 名 女子 10 名 計 26 名)

挙手・発言する生徒が多く、言語活動に意欲的に取り組んでいる。また、予習や宿題などへの取組も良好である。中学校に入学してから約 8 か月が経過し、英語科における学習ルールは定着している。疑問詞については **what, how, who, which**, が既習であり、文構造の理解は難しくないと思われる。小学校外国語活動の完全実施に伴い、「聞くこと」「話すこと」への抵抗は少ないが、「書くこと」に対する苦手意識を強く持っている生徒が多いため、音声と文字を結びつける指導を丁寧に行う必要がある。

(3) 指導観

言語に関する知識が不十分でも状況や場面から内容を推測することは可能であり、実際の言語使用でもこのことは起こり得る。そこで、各パートの文法導入では実物、写真、絵などを用いて生徒の興味・関心を引きつけながら、日本語を介さずに文構造と意味を理解させたい。その後、日本語で簡潔に説明を加え、パターンプラクティスやワークブックで文構造に慣れさせたい。教科書本文の指導は文構造に慣れさせた後に行い、学習した文構造がある程度まとまった音声や文字となって示された場合でも理解できるように指導していきたい。特に新出単語や音読の練習では ICT を活用して練習効率を高め、ディクテーションを行って書く力をつけさせたい。そして単元の最後に行う言語活動において、生徒がこれまで学習した複数の文構造を用いて表現できるよう、段階を踏んだ指導を進めていきたい。

4 教育の情報化研究 ICT 活用部会研究テーマとの関連

- ・研究テーマ：使いたくなる ICT ～教科の目標を達成するために～

英語科の指導でよく使われるものとして次の3つが挙げられる。

- ①ピクチャーカード：教科書の挿絵を拡大した紙芝居のようなもので，教科書本文の導入や内容理解の場面で用いられることが多い。補助資料として各国の伝統文化や観光名所等の拡大写真もある。
- ②フラッシュカード：新出単語の練習に用いられるカード。表に英単語，裏にその意味が日本語で書かれている。
- ③ CD：本文の音声やリスニング問題が収録されている。

今回はこれら3つの要素をすべて含んだデジタル教科書を用いて指導する。教材を準備する時間を短縮して生徒の学習時間を確保するとともに，デジタル教科書のフラッシュカード機能を活用して新出単語の練習効率をあげ，また音読練習機能を活用して確実に音読できるような指導を継続することで音声と文字を結びつけ，書く力の向上につなげたい。また，本校は各階に1台ずつ50インチのTVがあるだけで，特別にICTの環境が整っているわけではない。そのため，まず教室にTVを運び込む作業が必要である。どの中学校でも学級の諸係の一つに学習係があることが多く，本校でも各学級に1～2名の英語係がいるので，休み時間中にTVを運んでおくよう依頼し生徒の協力を得るようにしたい。これまでの授業で生徒達はデジタル機器を使用した学習に慣れてきており，最近ではTVの移動だけでなくPCとの接続まで行ったり，英語係の仕事を手伝ったりする生徒の姿が見られるようになってきた。ICT機器を素早く準備し，デジタル教科書の活用を通して研究テーマに迫りたい。

5 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
部屋のどこに何があり，それがだれのものなのか積極的に情報交換している。	部屋のどこに何があり，それがだれのものなのか話したり書いたりしている。	部屋のどこに何があり，それがだれのものなのか理解している。	疑問詞 where, whose , 所有代名詞，人称代名詞の目的格を用いた文の意味・構造を理解している。

6 指導計画（7時間扱い）

時間	○ねらい ・学習活動	単元の目標 との関連	評価方法
1	○本単元で身につける技能や理解する内容を知る。 ・飛行機での旅行や海外旅行に行ったことがあるか対話する。	エの①	後日ペーパーテスト
	○疑問詞 where を用いた文の構造を理解する。 ・疑問詞 where を用いた文の構造を知る。 ・パターンプラクティス等で運用に慣れる。		
2 本時	○疑問詞 where を用いた文の構造を確認する。 ・教科書本文を通して、疑問詞 where の使い方を理解する。	エの①	後日ペーパーテスト
3	○疑問詞 whose , 所有代名詞を用いた文の構造を理解する。 ・疑問詞 whose , 所有代名詞を用いた文の構造を知る。 ・パターンプラクティス等で運用に慣れる。	エの①	後日ペーパーテスト
4	○疑問詞 whose を用いた文の構造を確認する。 ・教科書本文を通して、疑問詞 whose , 所有代名詞の使い方を理解する。	エの①	後日ペーパーテスト
5	○人称代名詞の目的格を用いた文の構造を理解する。 ・人称代名詞を用いた文の構造を知る。 ・パターンプラクティス等で運用に慣れる。	エの①	後日ペーパーテスト
6	○人称代名詞の目的格を用いた文の構造を確認する。 ・教科書本文を通して、人称代名詞の目的格の使い方を理解する。	エの①	後日ペーパーテスト
7	○部屋のどこに何があり、それがだれのものなのか情報交換する。 ・友達や ALT, JTE と情報交換する。 ・ワークシートにまとめる。	アの①	活動の観察
		イの①	ワークシート
		ウの①	ワークシート
後日	〈ペーパーテスト〉	イの①	ペーパーテスト
		ウの①	ペーパーテスト
		エの①	ペーパーテスト

7 本時の学習指導

(1) 目標

教科書本文を通して、疑問詞 **where** の使い方を理解する。(エの①)

(2) 指導に当たって

クリスクロスをしながら前時に学習した疑問詞 **where** について確認し、本文の内容理解に生かせるようにする。展開部分の新出単語の再確認、True or False、音読練習、ディクテーションではデジタル教科書を活用し、生徒が学習する時間を十分に確保した上で、できるようになるまでそれぞれの学習活動を必要に応じて繰り返すなど、丁寧かつ効率的に指導する。挙手、ワークシートから、本時の目標が達成されたか評価したい。

